

4者相互協力協定事業「健康増進プロジェクト」 小学校と連携して運動習慣定着のためのプログラム開発

12月22日（火）、北海道の将来を担う子どもたちの成長を支援するために相互協力協定を結んでいるJA北海道中央会、(株)北海道フットボールクラブ、北海道教育大学、北海道教育委員会による4者連携事業では、「健康増進プロジェクト」として、体力測定やボール運動プログラムを恵庭市立松恵小学校（安部英志校長）において実施した。

本プロジェクトは、昨年度の取組から、主に子どもたちの運動量が冬季に減少しがちであるという結果が得られたことを受け、屋内で気軽に楽しく取り組むことができる運動プログラムを開発・発信することにより、子どもたちの運動習慣の定着を図るもの。

この日は、協力校である同校の児童たちに、北海道教育大学が研究している体力測定やボール運動プログラムに取り組んでもらった。

また、本事業には運営者として、コンサドーレ札幌の堀米悠斗選手や北海道教育大学の学生12名も参加し、子どもたちはプロサッカー選手や大学生との交流を楽しみながら、体力測定やボール運動に汗を流した。また、JA北海道中央会からは、北海道米の良さを伝えるとともに、その消費を促すクリアファイルが記念品として全児童に贈られた。

この日実施したプログラムについては、以降も同校において継続的に取り組んでもらい、子どもたちの反応を確かめながら改善を加え、運動の苦手な子どもたちでも楽しむことができる運動プログラムとして、学校や地域で活用が図られるよう、ホームページ等で発信していくこととしている。

